

＜白老地域＞

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果		評価	今後の課題
推進体制		教育（学習）型イオルを指向し、実践的な活動を通じた伝承者の育成や、アイヌ文化の体験を通じた普及啓発活動を実施	財団が直接執行するものの他、業務の内容に応じ関係団体等に委託し、実施 ・（財）アイヌ民族博物館、一般社団法人「白老モシリ」及び白老町に業務を委託	＜H18＞ ・ 白老町に植栽等の事業を委託し、実施 ＜H19～＞ ・ 財団が直接執行するものの他、業務の内容に応じ関係団体等に委託し、実施 ＜19～20＞ →（財）アイヌ民族博物館…植栽地の維持管理業務、試験栽培業務、体験交流指導者育成業務 ＜21＞ →（財）アイヌ民族博物館…試験栽培業務、体験交流指導者育成業務 →一般社団法人「白老モシリ」…植栽地の維持管理業務		○ 自然素材の育成、試験栽培、空間の整備（コタンの再生）等を通じて、将来に向かって白老地域のアイヌ文化を護り継ぐための教育（学習）型イオルの形成の促進が図られている。	・ 今後の事業執行体制に関する課題の整理（受託事業の受け皿）、事業執行体制の改善策の検討 ・ 白老イオル事務所チキサニ、白老モシリ、アイヌ民族博物館等との役割分担の検討 ・ 地元要望、予算要求、執行に至るプロセスの改善
空間形成	植栽	①植栽事業 →自然素材の確保のための樹木等の植栽	アイヌ文化の伝承に必要な自然素材植栽	＜H18＞ ① 陣屋地区（約20m） ・ 水性植物 760株（4種類）		○ 生育状況、概ね良好 地域のアイヌの人々（白老モシリ等）が維持管理している。	・ ゴザ編みの材料に適するものになるまで、2～3年を要する。 植物の増殖、生育地の拡大が必要。
				② ポロト自然休養林地区（2ha） ・ 樹木1,490本（10種類）		○ 一部にシカによる食害や上部の枯死がみられるが、活着状況は良好	（中長期） ・ 他の地域の伝承活動に提供できるだけの収穫物の確保。 ・ 伝承活動の素材になるためには、長時間を要する。その間の維持管理が必要である。また国有林であることから、地元の森林管理署との連携強化を図る。

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価	今後の課題
空間 形成	植栽			③ ポロト地区（1.2ha） ・ 樹木等 430本（19種類） ・ 野草 300株（3種類） ④ ヨコスト地区（300m2） ・ 野草類（苗） 400株（3種類） ・ 野草類（種子） 370g（1種類） <H19> ① 陣屋地区に自然素材を植栽 ・ 水性植物 1,200株（4種類） …ガマ、フトイ、ミクリ、サンカクリイ ② ヨコスト地区にハマボウフウの種子を植栽	○ 一部に、上部の枯死がみられるが、活着状況は良好 △ ※試験栽培地に変更（H20） …ヨコスト地区において、2年間（18-19年度）植栽を実施したが生育状況が不良であったため、同地区を「植栽地」から「試験栽培地」に変更した。 ○ 生育状況、概ね良好 ○ 生育状況、不良	・ 継続的な維持管理が必要 ・ 継続的な維持管理が必要 ・ 安定的収穫量の増加が必要。 ・ 安定的収穫量の増加が必要。
		② 維持管理 →植栽地の維持管理	平成18、19年度に植栽した樹木等の維持管理	<H19～> ・ 保育観察（定期巡視4月～10月週1回以上、11月～3月は月2回以上実施、その他悪天候時に適時実施）除草・草刈等の維持管理業務を実施（その都度、臨時作業員（支部会員）を雇用し実施。	○ 計画どおり実施しており、地域のアイヌの人々（白老モシリ等）が維持管理している。	・ 継続的な維持管理が必要
		③ 体験学習 →イオルの森での「森づくりの体験学習」	<H21> ポロト自然休養林地区における「森づくりの体験学習」として捕植や枝払い、間伐の実施	<H21> ※ 「森づくりの体験学習」 …未実施	× 「イオルの森づくり活動に関する協定」基づく、事業計画の策定と事業実施が必要。	・ 植栽物の成長に合わせた体験学習の実施。「（仮称）イオルの森協議会」を設置し、森林管理署とともにアイヌ文化と森林に関する教育を行う。 （中長期） ・ 「イオルの森づくり活動に関する協定」基づく、事業計画の策定と事業実施…植栽物の成長に合わせた体験学習の実施

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
空間形成	試験栽培	試験栽培事業 → 自然素材の確保を図るため ・森野地区 ・ヨコスト地区での試験栽培実施	<H18～> 穀物、苗木（森野地区）	<H18～> ・ 穀物（ヒエ、アワ、キビ計0.2ha）平成18年度から21年度までの間でアワ131.7kg、ヒエ100.5kg、キビ 11kgを収穫し、体験交流事業や支部の伝承料理教室において、トノト作り、伝統料理に活用苗木の試験栽培を実施（森野地区） （オヒョウ、イヌエンジュ他15種	○	土壌改良等を行い安定的な収穫を目指しているが、天候不順によりキビの収穫量が少ない。収穫物は有効に伝承活動に活用している。 穀物、苗木の試験栽培により、効率的な生産方法を模索している。	・ 他の地域での伝承活動に収穫物を提供するためには収穫物の安定的な確保が必要。
							（中長期） ・ 本格的な栽培展開 ・ いわゆる自然素材育成の循環の仕組みの検討と構築
			有用・薬用植物（森野地区）	・ 有用・薬用植物の試験栽培を実施（森野地区） ヤブマメ、ツリガネニンジン、クサノオウ等18種類を栽培	○	ほとんどは順調に生育し、増殖しているがヤブマメ等一部は次年度に消滅した。	・ ヤブマメ等の消滅植物については専門家の意見を参考にしつつ、生育環境を整え増殖を図る。 ・ 希少植物の増殖
			<H20～> 海浜植物の試験栽培（ヨコスト地区） ※植栽地区から試験栽培地区に変更	<H20～> ・ 海浜植物の試験栽培を実施（ヨコスト地区） ハマボウフウの種子からの栽培を実施。	○	種子で植えたものは順調に生育しているが、親苗を増殖する必要があるため、食用薬用として収穫するにはもう少し時間が必要。	・ 植生調査をもとに、ハマボウフウが自生できる植生環境の保全

		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題等
空間 形成	空間 整備	空間整備（コタンの再生） →教育（学習）型イオルの拠点の形成	白老イオルの拠点となるポロト地区のコタンの再生 ・ チセの復元 ・ チセ周辺の環境整備	<H19> - 環境整備…支障物件撤去 - 環境整備…防護柵設置	○	コタン再現地の用地の確保と来場者の安全性を確保した。	来場者の安全性の確保と体験交流事業をより効果的に実施するための環境整備が必要
				<H20> - チセの復元（1棟） 復元したチセで、アイヌ語教室、伝統工芸、古式舞踊等を実施 - チセ周辺の環境整備（自然成木植栽、周辺安全確保対策） <H21> - チセの復元（2棟） - チセ周辺の環境整備…コタン内の道の整備			（中長期） 野外博物館機能を充実し、有料施設である（財）アイヌ民族博物館との効果的な連携を踏まえた全体的な運営方法の確立
				<H20> - チセの復元（1棟） 復元したチセで、アイヌ語教室、伝統工芸、古式舞踊等を実施 - チセ周辺の環境整備（自然成木植栽、周辺安全確保対策） <H21> - チセの復元（2棟） - チセ周辺の環境整備…コタン内の道の整備	○	博物館の伝承専門員や学芸員より、チセの建築技術、茅の採取方法等を伝承し人材を育成した。	計画に沿って効果的な事業の推進が必要。
				<H20> - チセの復元（1棟） 復元したチセで、アイヌ語教室、伝統工芸、古式舞踊等を実施 - チセ周辺の環境整備（自然成木植栽、周辺安全確保対策） <H21> - チセの復元（2棟） - チセ周辺の環境整備…コタン内の道の整備	○	予算の範囲内で計画どおり事業を実施。	計画に沿って、来場者の安全性の確保等、効果的な事業の推進が必要。復元したチセを長期間維持するための日常的な維持管理に関する検討

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
空間活用	体験交流	体験交流事業 → アイヌ文化への理解の促進を図るための体験交流事業を実施	<H19～> 海、山、川においての体験交流事業の実施 <H19～> - 体験交流指導者の育成	<H19～> 白老イオル体験交流推進協議会が次の事業を実施した。 - アイヌ民族の漁文化と自然との関わり方学習事業 - 川のイオル体験交流事業 - 山のイオル宿泊体験交流事業 - アイヌ文化の体験、体感交流事業 <H19～> - 体験交流指導員候補者に対して養成事業を実施	○	教育（学習）型イオルとして主に児童・生徒を対象に実施した、延べ17事業を通じて、白老地域のみにとどまらず近隣市町の住民にも参加を促し、アイヌ文化の体験と理解の促進が図られている。 ○ 体験交流事業の参加者への指導者として知識の習得が図られ、新たな自発的活動が展開されつつある。	イオル事業との役割分担等を図りながら、体験交流事業参加料の一部有償化を検討（食費、保険料等）
							- 若い世代の指導者育成 （中長期） - 指導者の継続的な育成
空間管理運営	イオル事務所運営	アイヌ文化の情報発信等を担う白老イオル事務所「チキサニ」設置、運営	<H20～> 白老イオル事務所「チキサニ」設置、運営	<H20～> 白老イオル事務所「チキサニ」設置、運営	○	イオル事務所への来訪者、事業の参加者へのイオル事業等に関する説明や企画展等のイベントを通じて、アイヌ文化への理解の促進が図られている。…これまでの来訪者約4,000名	次年度以降の事業執行計画及び業務執行体制の検討
			チセ等の維持管理	チセ等の維持管理 チセ屋内、屋外の清掃業務、チセ周辺の草刈作業、除雪作業、来訪者へのチセの説明業務	○	週3日の維持管理を実施。	（中長期） チセを長期間維持するための日常的な維持管理に関する検討
							（中長期） チセが劣化した際の屋根、壁等の茅の葺き替え
			アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供		○	週3日の来訪者への対応を実施。	より多くの人への学習機会、情報の提供

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題等
空間 管理 運営	管理 運営	管理運営事業 → 白老町役場による関係機関等との連絡調整	<H18～> ・ 総合的に管理運営するための関係機関との連絡調整等	<H18～> ・ 白老町役場が北海道アイヌ協会白老支部、(財)白老アイヌ民族博物館等との連絡調整を実施 平成18年策定の白老地域計画シラコラチを基本に白老イオル連絡調整会議、白老地域イオル検討委員会等を開催し、白老地域での事業の検証及び、計画の素案を調整。	○	予算の範囲内で実施できるものを優先的に地域案を計画、決定した。	

これまでのアイヌの伝統的生活空間の再生事業に関する検証・評価

<平取地域>

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
推進体制		活動型イオルを指向し、イオルの森等における植栽、試験栽培を行うとともに、コタン等での伝承活動を実施	財団が直接執行するものの他、業務の内容に応じ平取町に委託し、実施	<H20～> 管理運営事業…平取町に委託し、実施	○	・ 空間の整備（コタンの再現）、自然素材の試験栽培等を通じて将来に向かって平取地域のアイヌ文化を語り継ぐための活動型イオルの形成の促進が図られている。	・ 専門家との協働による実施等 ・ 地元要望、予算要求、執行に至るプロセスの改善 ・ （中長期）事業執行体制…将来を見据えた受託組織の確立
空間形成	空間整備	空間整備 （コタンの再現） →平取地域のイオルの核となる空間（コタン）の整備	二風谷地区のコタンの再現 ・ チセ等の復元 ・ コタン周辺の整備	<H20> ・ チセの復元（1棟） ・ コタン周辺の整備（盛土整地、支障木の撤去） <H21> ・ チセの復元（2棟） ・ チセ付帯施設の整備（歩道整備、築山整備） ・ 伝承活動の実践…ポロチセにおいて、来訪者等への伝承活動を実践	○	・ 平取地域のイオルの核となるコタンの形成が促進されている。 ○ ・ チセの復元を通じて、復元技術や伝統儀礼の伝承が図られている。 ○ ・ チセの復元を通じて、復元技術や伝統儀礼の伝承が促進されている。 ○ ・ アイヌ文化の伝承、体験による理解の促進が図られている。	（中長期）復元したチセの計画的な活用と維持管理に関する検討（管理人としての伝承者の配置など） （中長期）復元したチセの計画的な活用と維持管理に関する検討 ・ 力ヤの確保 ・ 計画的な環境整備が必要 ・ 担い手の育成が急務 ・ 自然素材の確保。 （中長期）中長期的な担い手育成が必要。

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
空間 形成	試験 栽培	試験栽培事業 → 自然素材の確保を図るため、イオルの森の条例制定、二風谷地区での試験栽培を実施	<H20> ・ 苗畑の造成 <H21> ・ イオルの森の条例制定	<H20> ・ 山出し稚樹の幼苗	○	・ 苗畑の造成を行った。（二風谷地区）	・ 苗畑、移植先の食害対策が急務 （中長期） ・ 中長期を踏まえた管理運営が必要
				<H21> ・ イオルの森の条例制定	○	・ 平成21年9月開催の町議会においてイオルの森条例を制定した。 イオル先行実施地域として、対外的に文化振興策として強い意思表示を示したいとの理事者の考え方、または町議会、町民との数度に渡る協議、説明会を開催し、理解を得ることができ制定された。	・ 指定管理に係る協定の締結が必要 （中長期） ・ 中長期を踏まえた実験研究計画に基づいた管理運営が必要 ・ 一定のルールの下での自由な自然素材採取方法の検討 ・ 町民に対して理解促進のための説明会や意見交換会の実施
				・ イオルの森の現況調査	<H20 H21> ・ イオルの森の現況調査を実施	○	・ イオルの森の現況調査を実施し、アイヌ文化に有用な樹木等が不足している事が明確となった。 （木本、草本）
			・ イオル型複層林の造成	・ イオルの森実験研究計画に基づく施業のための選木作業、森を管理するための作業路の整備を行った。	△	・ 作業路の整備を行ったが、施業については選木作業までとなっている。	・ 択伐施業、搬出についての専門的な技術、知識、能力を有した者の協力を得ることが必要

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
空間 形成	試験 栽培		・ヌブカトイ（丘畑）での試験栽培（二風谷地区） ・アマムトイ（穀物畑）、ポント（小さい沼）、モセウシ（茅場）の整備及びカヤ等の試験栽培（本町地区）	・ヌブカトイ（丘畑）での試験栽培を実施	○	・ヌブカトイ（丘畑）において、試験栽培を実施した。なお、アワの品種の選定には検討の余地があった。	（中長期） ・中長期を踏まえた計画に基づく作業が必要 （3年程度では森づくりは出来ない。実験研究計画に基づき、長期的視野にたった森づくりが必要。伝承活動に使用できる目安としては、オヒョウ50年程、エンジュ40年～50年程など）
				・本町地区の水辺空間整備及びアマムトイ、ポント、モセウシにおいて一部、試験栽培を実施	○	・概ね予定どおり実施したが、基盤整備の遅れからアマムトイ（穀物畑）での緑肥作業が出来なかった。（本町地区）	・試験栽培を計画的に実施し、生産（栽培）技術確立が必要 ・成果物（穀物等）を事業目的に即し、有効活用を図る必要がある。 ・先行実施地域として、隣接支部・近隣支部等の伝承活動実践者への素材提供体系の検討が必要
							・試験栽培の計画的な実施による生産（栽培）技術の確立及び必要数量の把握と計画的生産（栽培）が必要
							・先行実施地域として、隣接支部・近隣支部等の伝承活動実践者への素材提供体系の検討が必要 ・要専門家の技術指導体制等の確立が必要

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価	今後の課題
空間活用	体験交流	体験交流事業 → アイヌ文化への理解の促進を図るため、体験交流事業を実施	<H21> ・コタン、イオルの森での体験交流事業の実施	<H21> ・コタン、イオルの森等を活用した体験交流を実施 →イナウ制作体験 8月5日～8月7日 →トマ（ゴザ）編み体験 8月20日から11回 →穀物の収穫体験 10月4日 →イユタ（臼）の体験 2月21日	○ ・体験交流を通じてアイヌ文化の理解の促進を図った。21年度より実践活動として出来ることから事業を開始した。地元関係団体の協力が得られ、理解の促進が図られたとともに次年度以降につながる展開が図られている。	・計画に沿って、効果的に実施する必要がある。 ・参加対象を管内規模等に拡大するなど先行実施地域としての展開が必要。オヒョウ、シナ材等の確保
空間管理運営	管理運営	管理運営事業 → 平取沙流川流域イオル構想平取町推進協議会（事務局：平取町役場）による関係機関等との連絡調整	<H20～> ・総合的に管理運営するための関係機関との連絡調整等 →沙流川流域イオル構想平取町推進協議会が事業の全体調整、進行管理	<H20～> 平取町が財団と協調し北海道アイヌ協会平取支部、関係団体等との連絡調整を実施 … H20～H21会議開催回数 ＊アイヌの人々の意見の集約 ＊町民との協働 〔平成20年度〕 ・推進協議会＝ 6回 専門委員会＝ 9回 検討部会＝ 29回 計 44回 ◆イオルの森の設定 ◆イオル再生事業整備方針の検討 その他関連会議等（支部）＝ 20回	○ ・推進協議会が事業の推進管理や関係機関との連絡調整を図った。地域内の合意形成に意を払っている。 ◆空間の設定 ①コタンの再現空間 ②水辺空間 ③イオルの森 ◆イオル再生事業整備方針の樹立と決定 ◆各空間での具体的な事業の推進 ◆伝承活動実施計画の策定と体験交流の試行	・引き続き、推進協議会での合意形成を図りながら事業を推進する必要がある。（中長期） ・事業実施の受け皿母体の検討と組織化

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価	今後の課題
空間 管理 運営	管理 運営			[平成21年度] ・推進協議会＝ 7回 - 専門委員会＝13回 - 検討部会 ＝19回 - 計 39回 ◆各空間の事業内容の検討 ◆各空間における伝承活動や体験 交流内容の検討 その他関連会議等（支部）＝19回		

これまでのアイヌの伝統的生活空間の再生事業の検証・評価

＜連携促進事業その他の取組＞

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
連携促進	ネットワーク	ネットワーク →各地域のイオルの特性の分析、具体的連携方策等の検討調査。各地域の情報共有化を図るネットワーク会議の開催	＜H18～＞ ・ネットワーク会議開催 →連携促進促進のため、情報共有を図るとともに、各地域の特性を分析	＜H18～＞ ・ネットワーク会議の開催 ＜H21＞ ネットワーク会議の開催 ワーキンググループ会議の開催	×	・各地域の特性の分析、役割分担、連携方策の検討整理が進んでいない。	
	ライブラリー	ライブラリーの構築、充実	＜H19＞ ・伝承者等調査（白老） ・ライブラリー（白老）	＜H19＞ ・白老地域アイヌの伝統・文化ライブラリー構築の基礎調査を（社）北海道アイヌ協会に委託し実施 …アンケート1,103件、ヒアリング30件 ・ライブラリーの構築 →白老地域の伝承者情報等集積 …伝承者：89名、3団体 文献：165件	○ △	・調査結果を基に、ライブラリーを構築した。 ・著作権等の整理が必要。	・著作権等の整理とライブラリーの効果的、効率的な運用

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
連携 促進	ライブラリー	ライブラリーの構築	・ 伝承者等調査（平取） ・ ライブラリー（平取）	・ 平取地域アイヌの伝統・文化ライブラリー構築の基礎調査を（社）北海道アイヌ協会に委託し実施 …アンケート543件、ヒアリング82件 ・ ライブラリーの情報追加 →平取地域の伝承者情報等集積 …伝承者：82名、文献：263件	○	・ 調査結果をライブラリーに反映。	・ 著作権等の整理とライブラリーの効果的、効率的な運用。
		ライブラリーの構築、充実	<H21> ライブラリー（平取）	<H21> ライブラリーの情報追加 →平取地域におけるアイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観などの実態調査の実施	△	・ 著作権等の整理が必要。	
	伝承者育成	伝承者育成事業	<H20～> ・ 伝承者の育成	<u><H20～></u> （財）アイヌ民族博物館に委託し実施 ・ 熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けるための「伝承者育成事業」を実施	○	・ 熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けるための「伝承者育成事業」を実施中である。（現在2年次目） ・ 動植物の利用部位、採取時期、処理法、利用法を習得。 ・ 自然素材を活用した手工芸等の技術の習得。 ・ アイヌ語の文法、アクセント、訳文、表記法の習得。 ・ アイヌの世界観を伝統儀式を通して習得。	・ 受講中止者がでたことから今後の進め方について検討が必要。 ・ 事業終了後（平成23年度以降）の受講終了者の活動の場の検討。 ・ 23年度以降の伝承者育成の取り組みの検討。

項目		事業名・事業概要	事業項目	これまでの実施結果	評価		今後の課題
連携	調査	調査	<H21> カヤ等に関する情報収集検討	<H21> ・（財）アイヌ民族博物館に委託しカヤに関する調査実施	△	・アイヌの伝承活動に必要なカヤの植生分布状況について調査カヤ群落の分布状況を、調査地の環境特性、現況図、写真等に記録した。	・チセ建設に伴う近隣のカヤが不足しており、道内におけるカヤの分布状況の把握が必要。 ・規制緩和等についての検討
	規制緩和	規制緩和	・規制緩和についての調査検討等	○白老地域 ・平成19年4月 協定書の見直しについては、全国一律の扱いなので難しい。 ・平成19年8月 町と当該地の貸付契約を締結すると、立木など上物の処分権は町とすることができそう。 ・平成20年8月 国有林の無償使用については、国有林野法上困難である。 平成21年7月 国有林地の無償貸付、立木の無償売り払いは、法令上困難。 ・平成21年12月 ・平成22年1月 保安林に指定されているため、有償使用許可により白老町が借り受ける方法が考えられる。 ○平取地域 平成20年7月 国有林内に生息している稚樹の無償譲渡は、国有林野管理経営法、国有財産法上困難。 平成20年8月 国有林の無償使用、国有林の稚樹の無償提供は国有林野管理経営法困難。 ○両地域共通 平成22年2月 ○白老、平取に平成21年の実績ベースの地元の講座、サークル等の自然素材の使用実績の把握を依頼	×	・調査が実施されていない。 関係者の協力を得る上で前提となる各地域ごとの植生、伝承活動実績を踏まえた伝承活動に必要な自然素材の量・過不足の把握等ができていないため、まず、平成22年2月、白老、平取に把握を依頼した。 利活用に向けた信頼関係構築 有識者懇談会報告書の取りまとめ後、森林管理局がアイヌ文化伝承のための樹木等の迅速な売払いを全道の森林管理（支）署長に周知するなど、規制緩和等が議論された当時から大きく状況が変化している。この変化を踏まえ、関係者と信頼関係を築いて行くことが重要。 （参考） 平成21年7月 「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告書はイオル事業について、実施地域の関係者が土地・資源の利活用の観点からの協力が必要と提言。 平成21年9月他 アイヌ協会支部等が行うアイヌ文化伝承のための自然素材に関連する動きとして、北海道森林管理局が各森林管理署に国有林手続の迅速な対応方を周知	・利活用に向けた関係者の連携促進 有識者懇談会が提言する「土地・資源の利活用」の観点から、アイヌ協会が関係者と意見交換を行っているので、イオル事業について財団も加わり情報共有を図る。 また、イオル事業の推進には、地元関係者の連携が重要。引き続き、関係者との連携に努める。例えば、伝承活動等のうち、体験交流事業など「利活用」の視点で関係者と連携を深めることが重要。 ・自然素材の必要量等の把握 関係者と意見交換を行う上で、各地域が必要とする自然素材の使用量等の把握が必要。まず、白老、平取の実績、自然素材の使用量等を把握する。 （中長期） 白老、平取以外の地域の活動実績、自然素材の使用量等を把握する。